

(d) Ifのない仮定法

Ifのない仮定法は形態的に直説法過去であるから、仮定法が直説法過去の単純過去と紛らわしいことはある種仕方のないことである。『英語発達小史』Henry Bradleyを参照すると、次のようにある。

今日知られている言語で意味の曖昧さを招く懼れの全くないような完全な言語は存在しない(P.85)。

古期英語には未来を表わす特別な形式はなく、時制形式はただ二つ、過去時制および現在・未来時制のみであった。(中略)英語は未来の出来事が話し手の意志に関わるか否かによって、willまたはshallという助動詞を当てることになった。ただし、話し言葉ではいずれの助動詞も弱まって[]となり、両者の区別は曖昧になっている。それで今日I'll be there.というと、未来時と弱い意図の両方が表わされることになる。(P.305)

次の例は形態論の輸入書で恩師である中澤和夫先生の英語学演習 で使用した教科書の中でみつけた突然の過去形(仮定法) 実例であるが、これは仮定法であろうと拙者は思うのである。

Noun-derived adjectives are far less numerous than adjective-derived nouns. Such long-established examples as *level*, *dainty*, *shoddy*, *bridal*, were probably, as Jespersen suggests (MEG , 3.82), helped in the direction of adjective-hood by the accidental similarity of their endings to those typical of adjectives. Some other examples are *game*, *commonplace*, *partisan*, *matter-of-fact*, *average* (Valerie Adams 19).

根拠としては英語は直説法現在と直説法過去とがあれこれ混在するものではなく、この例ではまわりは直説法現在なのに対し、突然一行だけ生起した直説法過去だからである。とくに文法の論文などは現在形のもつ「普遍の真理」の表現の頻度が高い性質のものであるし、ここでも、「おそらく...だった」という単純過去の意に書いたのであれば、おそらく現在完了のhave beenを使うはずなのである。また問題箇所はwere probablyと仮定法帰結節にしては助動詞がみられないが、

が、助動詞構文は昔はなかったことを考えても、本来、主観表現には必ずしも助動詞を必要としないのであり、以上のような視点からこの直説法過去は仮定法と推定できるのである。英語の過去形を見たら単純過去か仮定法かと考える習慣をつけるべきである。

さて、仮定法を教える際に、間違っはいけなことは、Ifがあるから仮定法？なのではないことである。**過去形だから仮定法を疑う**と説明すべきである。従属節のない帰結節だけのセンテンスがあっても、これはIf節の省略でもなんでもなく、帰結節に過去時制が使われているから、まず単純過去を疑い文脈に合わないとき、これは仮定法だろうと判断するだけのことである。

また、仮定法には過去形を使うという説明をなすべきところを、時制をひとつ落とすなどと説明しないようにしたい。この一言で、学習者は、過去形の代わりに、現在完了形を誤用しかねない。もっとも、時制論で現在完了形を現在形から独立させて説明するからいけないのであると考えているのであるが、これについては後述したいと思う。仮定法を論じる上では、助動詞と時制の見方が重要なのです。

< 仮定法と単純過去との区別の実際 >

小説を読むと、現在の場面は徹底して現在時制が用いられ、回想の場面は徹底して過去時制で述べられていることが多い。表現のテクニックとして回想シーンに現在時制を用いて臨場感を出すこともあるので全てがそうとは言わないが、基本としては上の通りであろう。さて、いまここで現在時制の部分はずっと読んで来たところだとする。ところが突然、過去時制の嵐に見舞われ、過去の回想シーンかと思って読むとどうもコンテクストに合わない……なんていう経験はないだろうか。その場合に仮定法を疑ってみるのである。実際は、仮定法条件節が出てくるのは最初の一行だけで後は帰結節だらけであるとか、もしくは条件節のない仮定法であることも多いはずであり、仮定法を指導する際にIf節を強調することは、反って混乱を招くように感じます。また、実際の対話で仮定法を使う時は、頭の中で仮定法過去完了か過去か・・・などと悩む間などないのであり、こうした実用性の弱さが文法批判を生んでいる原因であろう。ここでは「仮想の話には過去形を使えばよい」ということだけわかれば、済むはずである。